

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	②体系的な道路ネットワークの構築
			施策の小項目名	○体系的な幹線道路ネットワークの構築
主な取組	那覇空港自動車道の整備		対応する成果指標	主要渋滞箇所数
施策の方向	・ 沖縄本島の南北軸と東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網（ハシゴ道路）、空港・港湾へのアクセス強化に資する重要物流道路や那覇都市圏の交通容量拡大、交通経路分散に寄与する２環状７放射道路の整備など体系的な幹線道路ネットワークの構築に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
本島中南部・北部の各拠点の地域振興の支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和を図るため、那覇空港自動車道(小禄道路)の整備を行う。	国	小禄道路の整備		
		整備促進に向けた県から国への要請回数(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL https://www.ogb.go.jp/kaiken/3434/11917/011623

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

道路交通円滑化改築（国道506号）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

国直轄

その他

令和7年度活動内容

国は、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

予算事業名

国直轄事業県負担金（国道506号）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

負担

令和7年度活動内容

県は、国の小禄道路の整備に係る負担金を支出した。さらに県は国に対し、当該事業の促進を図るため早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

(単位：千円)

予算事業名

道路交通円滑化改築（国道506号）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

国直轄

その他

令和8年度活動計画

国は、小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備等の要請を行う。

予算事業名

国直轄事業県負担金（国道506号）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

負担

令和8年度活動計画

県は、国の小禄道路の整備に係る負担金を確保する。さらに県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備等の要請を行う。

活動指標名

整備促進に向けた県から国への要請回数（累計）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

順調

国は、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。

- 2 -

様式 1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度の要請回数は、目標値2回に対し実績は2回だったことから目標を達成しているため順調とした。 国において、小祿道路の整備が着々と進んでおり、完成後は広域交流拠点と各圏域拠点間のアクセス改善、利便性向上及び産業の振興に寄与する。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の実績改善案	反映状況
引き続き国に対し、早期整備の要請を2回行う。	県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。	⑧ その他	引き続き国に対し、早期整備の要請を2回行う。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	②体系的な道路ネットワークの構築
			施策の小項目名	○体系的な幹線道路ネットワークの構築
主な取組	沖縄西海岸道路の整備		対応する成果指標	主要渋滞箇所数
施策の方向	・ 沖縄本島の南北軸と東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網（ハシゴ道路）、空港・港湾へのアクセス強化に資する重要物流道路や那覇都市圏の交通容量拡大、交通経路分散に寄与する２環状７放射道路の整備など体系的な幹線道路ネットワークの構築に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点、高規格幹線道路を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、沖縄西海岸道路（読谷道路等）の整備を行う。	国	読谷道路、浦添北道路、那覇北道路等の整備		
		整備促進に向けた県から国への要請回数（累計）		
		2回	2回（4回）	2回（6回）
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL https://www.ogb.go.jp/kaiken/3434/11917/011623

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

道路交通円滑化改築事業（国道58号）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

国直轄

その他

令和7年度活動内容

国は、読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

予算事業名

国直轄事業県負担金（国道58号）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

負担

令和7年度活動内容

県は、国の読谷道路等の整備に係る負担金を支出した。さらに県は国に対し当該事業の促進を図るため早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

(単位：千円)

予算事業名

道路交通円滑化改築事業（国道58号）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

国直轄

その他

令和8年度活動計画

国は、読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備等の要請を行う。

予算事業名

国直轄事業県負担金（国道58号）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

負担

令和8年度活動計画

県は、国の読谷道路等の整備に係る負担金を確保する。さらに、県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し早期整備等の要請を行う。

活動指標名

整備促進に向けた県から国への要請回数（累計）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

順調

国は、読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

- 5 -

様式 1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度の要請回数は、目標値2回に対し実績は2回だったことから目標を達成しているため順調とした。 国において、読谷道路等の整備が着々と進んでおり、完成後は広域交流拠点と各圏域拠点間のアクセス改善、利便性向上及び産業の振興に寄与する。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の実施改善案	反映状況
引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。	県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要請を2回（5月、11月）行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。	⑧ その他	引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	②体系的な道路ネットワークの構築
			施策の小項目名	○体系的な幹線道路ネットワークの構築
主な取組	ハシゴ道路ネットワークの構築		対応する成果指標	主要渋滞箇所数
施策の方向	・沖縄本島の南北軸と東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網（ハシゴ道路）、空港・港湾へのアクセス強化に資する重要物流道路や那覇都市圏の交通容量拡大、交通経路分散に寄与する２環状７放射道路の整備など体系的な幹線道路ネットワークの構築に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
沖縄本島の南北軸と東西軸を有機的に結ぶハシゴ道路、空港・港湾へのアクセス強化に資する重要物流道路や那覇都市圏の交通容量拡大等に寄与する2環状7放射道路の整備など体系的な幹線道路ネットワークの構築に取り組む。	県	浦添西原線、県道24号線バイパス、南部東道路、上之屋道路等の整備		
		整備済延長（累計）		
		整備実施	2.9km(2.9km)	2.7km(5.6km)
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL —

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)						
(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 地域連携推進事業費（地域高規格道路）				予算事業名 地域連携推進事業費（地域高規格道路）		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
内閣府計上	直接実施	2, 616, 247	3, 239, 780	内閣府計上	直接実施	4, 441, 247
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
南風原知念線（南部東道路）における工事および用地補償等の整備の実施。				南風原知念線（南部東道路）における工事および用地補償等の整備の実施。		
予算事業名 高規格ICアクセス道路整備事業費等				予算事業名 高規格ICアクセス道路整備事業費等		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
内閣府計上	直接実施	3, 753, 264	1, 990, 071	内閣府計上	直接実施	5, 401, 911
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
幸地インター線、城間前田線等における工事および用地補償等の整備の実施。				幸地インター線、浦添西原線、城間前田線等における工事および用地補償等の整備の実施。		
活動指標名	整備済延長（累計）		R7年度			活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B	
	—	—	0. 4km	整備実施	0. 0%	幹線道路ネットワークにおける対象路線の計0. 4kmが整備済みとなったとともに、南風原知念線（南部東道路）、幸地インター線、城間前田線等の工事および用地補償等を実施した。

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
幹線道路ネットワークの対象路線の整備を実施し、浦添西原線の一部の計0.4kmが整備済みとなり、目標値を達成したことから、取組は順調と判定した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
収用委員会の動向を注視し、裁決後に速やかに用地取得を行い工事進捗を図る。	収用委員会の動向を注視し、裁決後に速やかに用地取得を実施し、工事進捗を図るために事業工程の精査や土木事務所と対象路線に関する調整などの事業進捗に関する現状および課題等の把握に努めた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	令和7年度までの進捗状況が順調であることから、対象路線の早期の効果発現に向けて、支障となる課題等の把握とその解決手法を検討するため、各土木事務所との連携の強化を図っていく必要がある。	① 執行体制の改善	各土木事務所との執行会議等を開催し、対象路線の整備における課題や工程の共有を実施するなど、早期の効果発現に向けての事業進捗を図る。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	②体系的な道路ネットワークの構築
			施策の小項目名	○渋滞ボトルネック対策
主な取組	渋滞ボトルネック対策		対応する成果指標	主要渋滞箇所数
施策の方向	・ 短期的な渋滞対策である主要渋滞箇所における渋滞ボトルネック対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
主要渋滞箇所における交差点改良や右折帯設置等の渋滞ボトルネック対策に取り組む。	県	主要渋滞箇所の改良		
		改良箇所数(累計)		
		1箇所	1箇所(2箇所)	1箇所(3箇所)
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄振興公共投資交付金事業（道路）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
（ハード）

直接実施

78,717

4,106

令和7年度活動内容

主要渋滞箇所の整備を実施した。

予算事業名

沖縄振興公共投資交付金事業（道路）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
（ハード）

直接実施

148,943

令和8年度活動計画

主要渋滞箇所の整備を実施する。

活動指標名

改良箇所数（累計）

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

—

—

1 箇所

1 箇所

100.0%

順調

主要渋滞箇所の1つである東江一丁目交差点について、渋滞ボトルネック対策としての改良を実施し、令和8年2月に完了した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

渋滞ボトルネック対策を実施し、計1箇所を改良済みとなり、目標値を達成したことから、取組は順調と判定した。
引き続き、主要渋滞箇所の短期的な渋滞対策に寄与する渋滞ボトルネック対策を推進する。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

他工事との合併施行を検討する等、不調・不落対策に努める。

反映状況

土木事務所と対象箇所の対策に関する調整を実施するなど、対策工事に関する規模および課題等の把握することで、不調・不落対策に努めた。

- 11 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑧ その他外部要因 （改善余地の検証等）	令和7年度までの進捗状況が順調であることから、渋滞ボトルネック対策の効果発現に向けて、支障となる課題等の把握とその解決手法を検討するため、各土木事務所等との連携の強化を図っていく必要がある。	① 執行体制の改善	各土木事務所との執行会議等を開催し、渋滞ボトルネック対策の改良における課題や工程の共有を実施するなど、早期の効果発現に向けての事業進捗を図る。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	③沖縄都市モノレールの機能強化
			施策の小項目名	○沖縄都市モノレールの安全・安心な運行継続
主な取組	モノレール施設の点検・修繕		対応する成果指標	モノレール乗客数
施策の方向	・ 沖縄都市モノレールは、県民や観光客の公共交通の基盤となっており、令和元年には、首里駅～てだこ浦西駅までの延長が実現し、県内唯一の定時定速の公共交通機関として重要性が増しているため、安全・安心な運行を継続できるよう取り組むことが必要です。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
モノレールインフラ施設(軌道桁、支柱、駅舎等)について、長寿命化修繕計画に基づき、事業を実施し、施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減を図る。また、計画的な修繕によりモノレールの運行への影響を極力抑える。	県,事業者	長寿命化計画に基づくモノレールインフラ施設の修繕		
		長寿命化計画に基づく修繕の進捗率(事業費ベース)		
		26.5%	38.8%	51.0%
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課【 098-866-2408 】		関連URL	—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名		沖縄都市モノレール道整備事業（道路）			予算事業名		沖縄都市モノレール道整備事業（道路）		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
一括交付金 （ハード）	補助	91,788	257,809		一括交付金 （ハード）	補助	100,526		
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画				
首里駅、運営基地出入り口の分岐器等の修繕を行った。また、モノレールインフラ施設（軌道桁、支柱）の定期点検も実施した。					てだこ浦西駅の分岐器修繕等を実施する。				
予算事業名		沖縄都市モノレールメンテナンス事業			予算事業名		沖縄都市モノレールメンテナンス事業		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
内閣府計上	補助	0	199,056		内閣府計上	補助	64,000		
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画				
モノレールインフラ施設（軌道桁、支柱）の定期点検を実施する。					モノレールインフラ施設（軌道桁、支柱）の定期点検を実施する。				

活動指標名	長寿命化計画に基づく修繕の進捗率（事業費ベース）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	30.6%	26.5%	100.0%	順調	首里駅、運営基地出入り口の分岐器等の修繕を行った。また、モノレールインフラ施設（軌道桁、支柱）の定期点検も実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
分岐器の修繕及びモノレールインフラ施設（軌道桁、支柱）の定期点検を行っており、計画に基づき概ね順調に進捗している。 長寿命化計画に基づく修繕の進捗率（事業費ベース）について、目標事業費（累計）666,230千円に対し実績766,867千円（達成割合30.6%）だったことから、「順調」と判定。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
施設の長寿命化、モノレールの安全運行を維持するため、施設の点検を実施するとともに、モノレール運行事業者と連携を密にし、点検結果を踏まえた施設の修繕を計画的に実施していく。	モノレールインフラ施設の点検を実施し老朽化状況を確認するとともに、老朽化が進んでいた箇所については、修繕を行った。 また、モノレール運行事業者との修繕計画の調整を行い、分岐器の修繕を計画的に実施し、施設の長寿命化を図った。

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
③ 他地域等との比較（内部要因）	沖縄都市モノレールインフラ施設は、沖縄特有の高温多湿及び塩害などの厳しい自然環境により、鋼構造物の損傷・劣化が生じやすい。また、モノレール運行に直接影響するため確実な維持修繕が必要である。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	引き続き、施設の長寿命化、モノレールの安全運行を維持するため、適切な時期の点検実施及び計画的な修繕を実施する。また、点検の実施にあたっては、更なる効率化の観点から、新技術の活用を検討する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	③沖縄都市モノレールの機能強化
			施策の小項目名	○沖縄都市モノレールの輸送力増強の推進や高速化の検討等
主な取組	沖縄都市モノレール輸送力増強事業		対応する成果指標	モノレール乗客数
施策の方向	・乗客数も予想を上回るペースで増加していることから、地域間を結ぶ交通ネットワークの拡充を図るためにも、今後の需要動向を踏まえ定時速達性に優れた幹線公共交通機関として、モノレールの輸送力増強の推進や高速化の検討に取り組むとともに、駅舎の一部増築など、需要に合わせた整備を促進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄都市モノレールの時間当たりの最大混雑率を120%未満に抑えるため、2両1編成の車両を3両1編成化し、輸送力の増強を図る。また、これと併せて車両を留置する新車両基地を整備する。	県,那覇市,浦添市,事業者	輸送力増強に向けた3両編成車両の整備(車両整備、新車両基地整備、既存駅舎の改築等)		
		3両編成車両運行開始数(累計)		
		1編成	2編成(3編成)	2編成(5編成)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課		【 098-866-2408 】	関連URL —

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄都市モノレール輸送力増強事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ハード)

その他

3, 508, 078

4, 610, 387

令和7年度活動内容

3両編成車両製造、新車両基地工事を実施した。

予算事業名

沖縄都市モノレール輸送力増強事業（インフラ部）

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ハード)

直接実施

218, 351

220, 486

令和7年度活動内容

上部工架設工事を実施する。

予算事業名

沖縄都市モノレール輸送力増強事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ハード)

その他

5, 411, 031

令和8年度活動計画

3両編成車両製造、新車両基地工事を実施する。

予算事業名

沖縄都市モノレール輸送力増強事業（インフラ部）

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ハード)

直接実施

86, 427

令和8年度活動計画

道路復旧工事を実施する。

活動指標名

3両編成車両運行開始数（累計）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

—

1編成

1 編成

100. 0%

順調

令和7年度は、3両編成車両1編成を追加で運行開始し、輸送力を増強することで、利用者における定時定速性の確保および利便性の向上に取り組んだ。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度の目標であった3両編成車両1編成の運行開始については、令和8年3月に3両編成車両1編成分を追加で運行開始し、目標を達成した。今後も利用者のさらなる増加が見込まれることから、新車両基地の整備等に取り組み、残りの3両編成車両の一日も早い運行開始を実現し、利便性の向上を推進する。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
運行事業者と連携を密にし、新車両基地の運航開始に係るリスク要因の把握に努めるとともに、3両編成車両の重要点検に影響が生じないよう、工事工程の短縮に向けた調整等を行う。	運行事業者に対し毎月の工事進捗を確認するとともに、関係者間での工事進捗等の情報共有を図るなど工程管理を適切に行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	現在、導入済みの3両編成車両の重要点検が令和8年度に控えており、それまでに新車両基地の供用開始が必要となるため、適切な工程管理が必要である。	② 連携の強化・改善	引き続き、運行事業者等との工程管理を密に行い、3両編成車両の重要点検に影響が生じないよう新車両基地の供用開始に向け連携して取り組む。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	③沖縄都市モノレールの機能強化
			施策の小項目名	○定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークの形成
主な取組	幸地 I C（仮称）整備事業		対応する成果指標	モノレール乗客数
施策の方向	・ 沖縄自動車道と沖縄都市モノレール延長区間の結節やパーク・アンド・ライド駐車場の利用促進を図り、定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークの形成に取り組めます。加えて、関係機関等と協力し、沖縄都市モノレールとその他公共交通機関間の利用環境を改善させることで、県民及び観光客の移動利便性の向上を図ります。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄自動車道と沖縄都市モノレールの結節により、定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークの形成を図るため、幸地IC(仮称)の整備を推進する。	県	幸地ICの整備		
		整備進捗率		
		84%	92%	100%
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL
				—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

高規格ICアクセス道路整備事業費

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

内閣府計上

直接実施

2, 652, 930

1, 056, 353

令和7年度活動内容

幸地インター線における工事および用地補償等の整備の実施。

予算事業名

高規格ICアクセス道路整備事業費

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

内閣府計上

直接実施

2, 166, 996

令和8年度活動計画

幸地インター線における工事等の整備の実施。

活動指標名

整備進捗率

R7年度

実績値

目標値

達成割合

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

順調

幸地インター線における工事のうち、橋梁整備が令和7年7月に完了した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

幸地インター線の整備進捗率の88%となり、目標値を達成したことから、取組は順調と判定した。
引き続き、定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークの形成に寄与する幸地インター線の整備を推進する。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

計画見直しによる財源の確保や、補正予算を活用するなどし、早期の対策を実施することで事業の進捗を図る。

令和7年4月に各土木事務所と執行も含めた会議を開催したほか、適宜、幸地インター線に関する調整を実施するなど、事業進捗に関する現状および課題等の把握に努めた。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	令和7年度までの進捗状況が順調であることから、対象路線の早期の効果発現に向けて、支障となる課題等の把握とその解決手法を検討するため、土木事務所との連携の強化を図っていく必要がある。	① 執行体制の改善	土木事務所との執行会議等を開催し、対象路線の整備における課題や工程の共有を実施するなど、早期の効果発現に向けての事業進捗を図る。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	③沖縄都市モノレールの機能強化
			施策の小項目名	○沖縄都市モノレールとその他公共交通機関間の利用環境の改善
主な取組	駅バス停間の移動円滑化		対応する成果指標	モノレール乗客数
施策の方向	・沖縄自動車道と沖縄都市モノレール延長区間の結節やパーク・アンド・ライド駐車場の利用促進を図り、定時・定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークの形成に取り組みます。加えて、関係機関等と協力し、沖縄都市モノレールとその他公共交通機関間の利用環境を改善させることで、県民及び観光客の移動利便性の向上を図ります。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄都市モノレール各駅の昇降機(エレベーター、エスカレーター)は、供用開始から20年以上が経過しており、老朽化が顕著である。今後も安定して昇降機を運用するため、計画的な改修を行う。	県	既存駅昇降機(エレベーター、エスカレーター)の効率的かつ効果的な維持・修繕		
		維持・修繕施設数(内訳)		
		10駅	10駅(継続10駅)	10駅(継続10駅)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課		【 098-866-2408 】	関連URL —

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

（単位：千円）

予算事業名	モノレール関連施設維持管理費		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額
県単等	委託	112,860	111,936

令和7年度活動内容		
既存駅10駅の昇降機の維持・修繕を実施する。		

予算事業名	モノレール関連施設維持管理費		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	93,940	

令和8年度活動計画		
既存駅10駅の昇降機の維持・修繕を実施する。		

活動指標名	維持・修繕施設数（内訳）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	10駅	10駅	100.0%	順調	令和7年度は既存駅10駅の昇降機の維持修繕に取り組んだ。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和7年度の目標としていた既存駅10駅の昇降機（エレベーター、エスカレーター）維持・修繕工事については、計画どおり実施し目標達成した。今後も適切な維持管理を行い、モノレール利用者の利便性及び安全性の確保に取り組む。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案	反映状況
沖縄都市モノレール各駅の昇降機（エレベーター、エスカレーター）の点検を行い、損傷・劣化状況を把握し、優先度に応じて計画的な改修を行う。	昇降機の日常管理を行っている沖縄都市モノレール株式会社と連絡、調整を密に行い、各駅の昇降機の点検結果を踏まえ、損傷・劣化状況を適切に把握し、優先度に応じて計画的に維持・修繕を実施した。

- 23 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
③ 他地域等との比較 （内部要因）	沖縄都市モノレール各駅の昇降機は、沖縄特有の高温多湿及び塩害などの厳しい自然環境により、損傷・劣化が生じやすく、損傷箇所の早期対応が必要である。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	沖縄都市モノレール各駅の昇降機の点検を行い、損傷・劣化状況を把握し、優先度に応じて計画的な維持・修繕を行う。なお、修繕においては、予防保全の観点を含めた対策方法を検討する。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	⑤過度な自家用車利用からの転換
			施策の小項目名	○交通需要マネジメント（TDM）施策の推進
主な取組	自転車利用環境の整備		対応する成果指標	てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場入庫台数
施策の方向	・シームレスな交通体系の構築により、自家用車の利便性を上回る交通環境を提供することにより、過度な自家用車利用から公共交通等への利用転換が図られることから、自転車通行空間の整備や、パーク・アンド・ライド、シェアサイクルの利用促進、モビリティ・マネジメント（MM）等の交通需要マネジメント（TDM）施策を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
都市部における渋滞対策および低炭素都市づくりの実現に向け、既存道路に自転車走行位置を明示することにより自転車走行環境を確保し、自転車に頼らないライフスタイルへの転換、自転車の利用促進を図る。	県	自転車利用環境の整備		
		自転車通行空間の整備延長(累計)		
		0.3km	0.3km(0.6km)	0.3km(0.9km)
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【 098-866-2665 】	関連URL
				-

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

公共交通安全事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ハード)

直接実施

63, 527

67, 500

令和7年度活動内容

自転車通行空間の整備を0.3km実施した。

予算事業名

公共交通安全事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ハード)

直接実施

66, 200

令和8年度活動計画

自転車通行空間の整備を0.3km実施する。

活動指標名

自転車通行空間の整備延長 (累計)

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

—

—

0.3km

0.3km

100.0%

順調

県管理道路において、自転車通行空間の整備を0.3km実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

自転車通行空間の計画延長0.3kmに対して、整備延長0.3kmとなっており、目標を達成している。
進捗状況としては、順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○ すでに策定済みの自転車活用推進計画や自転車ネットワーク計画を基に、国や市町村と連携して自転車通行空間を整備する。
改定された「自転車利用環境創出ガイドライン」も踏まえて、整備する。

市町村が策定した自転車ネットワーク計画に基づき、国や市町村と連携して取り組んでいる。
市町村に対して、行政懇談会等において計画策定を促しており、計画策定済みの市町村は増加している。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	県内では、断片的な整備しかなされていないため、計画的・効率的に自転車通行空間を整備する必要がある。 また、令和6年度に、国の策定する「自転車利用環境創出ガイドライン」が改定された。	② 連携の強化・改善	すでに策定済みの自転車活用推進計画や自転車ネットワーク計画を基に、国や市町村と連携して自転車通行空間を整備する。 改定された「自転車利用環境創出ガイドライン」も踏まえて、整備する。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	⑤過度な自家用車利用からの転換
			施策の小項目名	○交通需要マネジメント（TDM）施策の推進
主な取組	パーク・アンド・ライド駐車場の利用促進		対応する成果指標	てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場入庫台数
施策の方向	・シームレスな交通体系の構築により、自家用車の利便性を上回る交通環境を提供することにより、過度な自家用車利用から公共交通等への利用転換が図られることから、自転車通行空間の整備や、パーク・アンド・ライド、シェアサイクルの利用促進、モビリティ・マネジメント（MM）等の交通需要マネジメント（TDM）施策を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
パンフレットの配布等の周知活動により、パーク・アンド・ライド駐車場の利用促進を図る。	県,事業者	パンフレットの配布等の周知活動によるパーク・アンド・ライドの利用促進		
		パンフレット配布回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレー ル課 【 098-866-2408 】		関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

(単位：千円)

予算事業名				—		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
—	—			—		
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
指定管理者による駐車場の管理・運営の取組として、利用促進に向けた広報活動を行った。				引き続き指定管理者において、幅広い方法で周知活動に取り組み、パーク・アンド・ライド駐車場の利用促進を図る。		

活動指標名	パンフレット配布回数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	1回	1 回	100.0%	順調	令和7年度はパンフレットを1回配布予定であったが、パンフレットに代わりデジタルサイネージによる周知活動を行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和7年度はパンフレットを1回配布予定であったが、パンフレットに代わり、デジタルサイネージによる周知活動を行った。周知活動の効果等もあって、令和7年度と同駐車場の入庫台数は250,996台と令和7年度目標値を上回る状況となっており、同駐車場の利用促進は順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案	反映状況
利用者の増加に対応するため、駐車場情報（満車空車情報）の提供を実施する。	利用の際の目安となるよう指定管理者のホームページに同駐車場の平均的な混雑イメージを「駐車場混雑の目安」として掲載したが、ホームページの仕様等の課題もあり、リアルタイムでの満車空車情報の提供には至らなかった。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑤ 県民ニーズの変化 （外部環境の変化）	利用者の増加に伴い、満車となる日が出てきている。利用者の利便性向上のため、リアルタイムでの情報提供が必要である。	⑥ 変化に対応した取組の改善	利用者の増加に対応するため、駐車場情報（リアルタイムの満車空車情報）の提供に向け、引き続き指定管理者と検討を行っていく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	⑤過度な自家用車利用からの転換
			施策の小項目名	○道路利用の効率化の検討
主な取組	道路幅員構成の再配分の検討		対応する成果指標	てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場入庫台数
施策の方向	・IoTやリアルタイムモニタリング等を用いて人流、物流等のビッグデータを収集し、AI等を活用した交通システムや自動運転等により、道路利用の効率化が図られることから、公共交通や歩行者及び多様なモビリティに対応した道路空間の幅員構成再配分を検討します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
歩行者および多様なモビリティに対応した道路空間の幅員構成の再配分に向けた検討する。	県	最新技術の活用による地域の実情に応じた最適な道路空間の再配分に向けた検討		
		再配分に向けた検討を実施する		
		実施	実施	実施
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【 098-866-2390 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

(単位：千円)

予算事業名				—			
主な財源	実施方法	R6年度	R7年度				
		決算額	決算見込額				
—	その他						
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画			
道路幅員構成の再配分において、候補となりえる県内の対象路線の選定および国内事例の情報収集の実施。				道路幅員構成の再配分において、国内事例の情報収集および現地確認の実施。			

活動指標名	再配分に向けた検討を実施する		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	実施	実施	0.0%	順調	道路幅員構成の再配分に向けて、県道39号線などの候補となりえる県内の対象路線の選定および検討熟度を高めるための国内事例の情報収集を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

県内の候補路線の選定および国内事例の情報収集を実施しており、目標を達成したことから、取組は順調と判定した。引き続き、歩行者および多様なモビリティに対応した道路空間の創出に寄与する道路幅員構成の再配分の検討を推進する。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案	反映状況
全国事例や事務所意見を参考に、路線の抽出を行う。	土木事務所との意見交換等も踏まえて、候補となりえる県内の対象路線を選定したほか、国内事例の情報収集による国内の実施状況および類似事例等の把握に努めた。

- 32 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	令和7年度までの進捗状況が順調であることから、道路幅員構成の再配分に向けての検討熟度を高め、支障となる課題等も把握するため、国内事例の情報収集を図っていく必要がある。	⑧ その他	国内事例の情報収集を継続的に実施することに加え、現地確認による県内の候補路線との比較等を実施するなど、道路幅員構成の再配分に向けての検討の推進を図る。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-エ	シームレスな交通体系の整備	施 策	⑤過度な自家用車利用からの転換
			施策の小項目名	○公・民・学連携による「沖縄型スマートシティ」の調査研究
主な取組	公・民・学の連携による交通・まちづくりの取組促進		対応する成果指標	てだこ浦西駅パークアンドライド駐車場入庫台数
施策の方向	・人々のライフスタイルの変化等を踏まえ、本県の地域の実情に応じた「沖縄型スマートシティ」の形成を念頭に、SDGsやSociety5.0に対応する地域と交通のあり方の調査研究について、公・民・学が連携する体制を構築し、包括的・継続的に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
Society5.0等に対応する地域と交通のあり方の調査研究について、公・民・学の連携による実証事業や先導的な取組等に参画する。	県、市町村等	Society5.0等に対応する地域や交通・まちづくりに向けた、公・民・学の連携による実証事業や先導的な取組等への参画		
		参画する取組等の数（内訳）		
		1件（継続1件）	1件（継続1件）	1件（継続1件）
担当部課【連絡先】	土木建築部土木総務課【 098-866-2384 】		関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

—

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

—

その他

—

—

令和7年度活動内容

地域振興や公民連携に係る支援制度および先進事例等の情報収集をしながら、公・民・学の連携による取組に参画する。

(単位：千円)

予算事業名

—

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

—

その他

—

令和8年度活動計画

地域振興や公民連携に係る支援制度および先進事例等の情報収集をしながら、公・民・学の連携による取組に参画する。

活動指標名

参画する取組等の数（内訳）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

—

1件

1 件（継続 1 件）

100. 0%

順調

PFI制度の活用検討をしているマリントウンMICEエリアにおいて、「大型MICEエリア振興に関する協議会」の協議会員等として、取組に参画した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
PFI制度の活用検討をしているマリントウンMICEエリアにおいて、「大型MICEエリア振興に関する協議会」の協議会員等として、地域の振興、まちづくりおよび交通対策に関する取組に参画した。また、当部所管の公共施設に対するPPP・PFI制度の活用に向けての情報収集を実施し、当部内における勉強会の開催や情報共有をしたことから、取組は順調と判定した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の実施改善案	反映状況
○将来的なSociety5.0等に対応する地域等の構築に際して、想定される課題等の解決に向けて、既存の公・民・学の連携による取組に参画し、関連する情報収集等の強化を図る。	○令和7年12月に「大型MICEエリア振興に関する協議会」の幹事会と令和8年3月に同協議会の作業部会に参加し、Society5.0等に対応する地域や交通・まちづくりに向けて、県有施設へのPPP・PFIの利活用における課題等の情報を収集したことで、公・民・学の連携への理解を深める機会とした。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	令和7年度までの進捗状況が順調であることから、将来的なSociety5.0等に対応する地域等の構築に際して、他都道府県の事例も含めて想定される課題等の収集とその解決手法を検討する。	⑧ その他	将来的なSociety5.0等に対応する地域等の構築に際して、想定される課題等の解決に向けて、既存の公・民・学の連携による取組に参画し、関連する情報収集等の強化を図る。